

# 岩手郡医報

No. 1 2

編集／発行  
岩手郡医師会  
58. 2. 21

## 葛巻町塚森高原

国道 281 号線小屋瀬部落より約 8 K、快適な舗装路を迂余曲折して登ると北上山系開発事業の一環として開発されたこの塚の森高原に出る。広大な高原には牧草が豊かに生い茂り、点々と見える放牧牛にとって又とない快適な環境であるに違いない。葛巻町周辺の急峻な山々を見な

れた我々にとっても葛巻にもこんなに広大な平原があったのかと不思議に思われる。晴天時には岩手山姫神山から八幡平など一望の下に見渡せ、空気はうまく絶好の憩いの場でもある。

写真及び文 近藤純造

## 年頭の御挨拶

会長 上野 精三

皆様御目出とうございます。

前年に引き続き私共医療関係者には厳しい年であった昭和57年の酉年も遠くへ飛んでいってくれればよいのに余り遠くに行かず猪の背に止って又々厳しい年になりそうです。

- 1) 中央政界のゴタゴタ、これは毎度のことですので余り苦になりません。
- 2) 法治国日本の最終判決に異議を唱えて居る例が沢山見うけられます。眞実を明かにし、無実であつたら早く救う様でありたい。世が暗ければ医界も又暗し。
- 3) 厚生省の監査とかで1年中暗い年が過ぎて明るい年になります様、この意味で自浄も必要か。
- 4) 老人保健法という立派な法が出来上りいよいよ2月1日から実施されます。私共会員の肩にのしかかってきます。

厚生省官僚が1983年の猪の年に向って猪突盲進した嫌なきにしもあらずです。

以上の様に私共医療関係者には去った年も来る年も何れも厳しい年です。特に色々な偉い人?と云われる人達は医界の問題について日本医師会が自浄作用をする様望んで居る様です。私共は自浄を望まれる前に心すべきではないでしょうか。

又、老人保健法の実施に伴い従来吾々の或る意味の特徴?であった待ちの医療より進んで出の医療即ち健康教育に務めなければなりません。

医療もうるさくなっています。吾々に次に望まれるのは何かと申しますと、必ず近い将来来るのは医療従業員の社会教育、特に教養の向上に意を注ぐ時期と考えられます。

尚、本年岩手郡医師会の画期的行事として6月26日、第二支部管内に於て岩手県医師会総会並岩手医学会春季医学会を担当することになって居ります。会員並びに従業員の皆々様の絶大な御努力と援助を御願いいたします。

総会も医学会も成功裡に終了させ、そして今まで暗色の医療界を明るくする様、皆で努力いたしましょう。

以上甚だ簡単ですが厚生官僚に猪突盲進された?昭和58年を迎えるに当たり一言申し述べて新年の挨拶といたします。

年頭よりのお願い

1. 社会保険指導者講習会並びに日医学講習演会に毎回会員数の5分の1宛割当てられます。病弱、老齢の方は止むを得ませんが、その他の方はなるべく出て下さい。各支部長さんが苦労されて居ります。お察し下さい。
2. 医報の原稿に困っております。1年1回は何か投稿願います。編集委員の方が困って居ります。御同情願います。
3. 勤務の先生方、入退会の届けを必ず出して下さい。蒸発なさらない様願います。

年頭より、お願い許りで恐縮です。

# 行事関係報告

## 1 日医関係

- (イ) 12月1日「ひいぶる」創刊号の寄贈あり、A会員並にB会員の一部に送付す。
- (ロ) 12月20日広報活動用ポスター配布あり、各医療機関に送付す。
- (ハ) 「ひいぶる」2月3月号は無償送付するも4月号より希望者に有料送付との通知あり、年間3,360円のこと。

## 2 県医関係

- (イ) 8月27日国税庁調査の新聞報道によれば開業医の60%が不正請求のことについて日医及び県医より報道機関に厳重抗議せる旨通知あり。
- (ロ) 8月27日救急の日及び救急医療週間の通知あり。
- (ハ) 9月15日宮古、釜石両医師会担当にて恒例のゴルフ大会開催される。
- (ニ) 9月21日私立病院長懇話会開催される。
- (ホ) 9月21日医師会員名簿送付される。
- (ヘ) 9月30日優生保護指定医の更新について届出集約方式並びに日母協力会員の寄附について
- (ト) 9月30日健康教育委員会開催、高橋孝委員出席す。
- (チ) 9月13日岩手県臨床検査の精度管理調査に参加方について
- (リ) 10月13日日医の医学講座に13名の割当あり。
- (ヌ) 10月20日医家芸術展あり、長谷川、高橋孝両会員出展す。
- (ル) 10月25日診療所実態調査に有床診療所の部、当会は秋浜先生指名される。
- (ヲ) 10月27日昭和57年度乳児等医療費の助成事業交付金下記の通り送金あり。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 教職員互助会 | 71,195 円  |
| 2. 市町村 "  | 298,502 円 |

3. 県	"	24,525 円
4. 医療局	"	3,748 円
5. 乳児等助成金		179,640 円
	合 計	577,630 円

(ワ) 昭和57年度看護学生生徒の募集ポスターの送付あり。

(カ) 11月29日新薬価基準の注文取りまとめについて。

(コ) 12月6日社会保険指導者講習会に13名割当あり。

(タ) 12月27日健康教育講座用成人病予防読本120冊送付あり。

## 3 岩手県関係

- (イ) 9月28日在宅看護婦の講習会について。
- (ロ) 11月20日県立保健婦養成所の募集について。
- (ハ) 12月4日東八幡平病院救急指定病院となる。
- (ニ) 12月14日盛岡保健所長より年末年始の診療体制について（零石、玉山、滝沢の医療機関に通知、調査す）

## 4 医師信金

- (イ) 10月15日決算報告あり。
- (ロ) 11月12日に医師信金の業務拡大運動展開され萩野理事長、松原専務理事、各衛生機関個別訪問、会長並びに信金秋浜理事同行、大部分の先生方協力するも2～3の先生方の協力得られず残念なり。

## 5 緊急追加

2月1日より施行される老人保健法並びに医療費改定に伴う説明会が1月23日開催されるに付、当医師会より高橋物保険問題協議会委員と今回特にオブザーバーとして一名追加出席認められるため佐藤郁先生に出席を依頼す。

尚、郡に於ける伝達講習会は高橋物及び佐

藤郁両先生を講師として下記の通り行う予定なり。

### 下記

1. 日時 昭和58年1月25日午後6時より
2. 場所 玉山村公民館
3. 関係資料当日配布

尚、本講習会の開催に当り例年通り秋浜、八角両先生、特に両先生の奥様並びに両医院の従業員に多大なる御迷惑をおかけすると思います。

紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

### 6 郡医関係

#### 1) 入退会

##### (イ) 入会

9月1日付

森 晴子 八角医院に岩手医大より  
長次敏明 " "

12月1日付

柄内 秀彦 栄内第二病院に盛岡市医  
師会より

佐々木国勲 " "

##### (ロ) 退会

7月31日

中村 朗 神奈川の郷里に、県立沼  
宮内病院より

加藤 潔 医大に八角医院より

10月29日

本山 渉 郡内北海道に、西根病院  
より

本期間の会員の移動により中村朗、本  
山渉両先生を失いたるは岩手医師会野球  
チームのため最大の損失にして極めて残  
念なり。

#### 2) 会員の慶弔

- (イ) 青木先生には12月上旬病気のため岩手  
医大病院に入院したるも、幸い経過良好  
にて12月中旬退院、自宅静養中
- (ロ) 12月4日秋浜先生母堂逝去せらる。  
謹んで御悔み申し上げます。

- 3) 8月27日安代町に於て岩手保健所管内環

境衛生大会開催せられ会長出席祝詞を呈す。

4) 救急の日及び救急医療週間に関するパン  
フレットを作製、各町村行政区単位宛配布  
啓蒙につとめたり。

5) 9月11日西根町「いこいの村」に於て全  
役員、並び役員なき町村の代表医師、各町  
村保健課長、各町村消防署長の会合を開き  
協議を行う。次の如き結果となり得る処大  
なり。

別紙1.2及び3の通り。

別紙

1. 救急の日のポスター配布について  
別紙のポスターを3,500枚印刷の上管  
内各家庭に回覧するよう各町村に依頼す  
る。尚、救急の日の本意は医療を主体と  
するものにつき、特に救急医療の日と書  
き換える。

2. 救急医療問題協議会の開催について  
当医師会は昭和54年以来毎年9月本協  
議会を開催しあり。

参加者 

各町村保健課長(8名)	{	管内各町村消防分署長(8名)
郡医師会役員並びに役員なき町 村は代表医師1名		

本年は9月11日西根町いこいの村に於て  
開催

参加者 総計28名

当日の会議の問題点は次の通り

##### (イ) 消防分署長よりの要望

(I) 救急患者を最寄の医療機関に運ん  
でも夜間医師不在のこと多し。

医師会側の回答

将来努めてかかることのないよう指  
導す。尚、この問題は当医師会会員  
中子供の教育の関係上盛岡市に居住  
するもの多きためなり。

(II) 医師在宅するも診療せず他医に移  
送を希望するものあり

医師会側の回答

専問が異なるため止むを得ざるもの

あり、然し特に救急を要するものについては将来善処す。

(III) 医療機関より高次救急センターに移送する際、重症なるものには医師又は看護婦の引添えを願い度、旨希望す。

医師会側の回答

この件に関し医療機関より移送の際は引添え如く指導あり、但し交通事故等道路上に於て救急車に収容した場合は困難なり。尚、この問題は医師、看護婦等の帰路の旅費（ハイヤー代）の支出に問題あり、保険にては支給されず、又家族よりの請求は事実上困難にして今後の検討を要する問題なり。

(IV) 患者の移送に当たり軽症と思われる患者でも必ず高次救急センターを希望するもの多し、この場合は如何にするべきか。

医師会側の回答

救急医療は各医療機関に治療能力の限界あり、この様なことを考慮して各戸に配布回覧せるポスターの救急の日を特に救急医療の日と書き換え、住民に一、二、三次の救急医療について理解を求めた次第です。

只、患者の希望を完全無視して特定の医療機関にだけ運ぶことのないよう願います。

(V) 救急医療の一、二、三次の意味を住民に理解させてほしい。

医師会側の回答

保健課長に

保健婦の部落訪問等の機会を促元PRするよう努力してほしい。

保健課長側

全く発言なし。救急医療は医療機関と消防署の問題と考えて居るようす。

### 3. 災害救急医療について

各町村共救急災害対策要綱を定めあるも、主として農作物の被害時又は水害の際の対策が主であって、医療の問題に関しては「町村立診療所之を担当する」の一行だけなり。

郡医師会としてもあらゆる災害例へは航空路、列車、自動車、大火災害、噴火、水害、伝染病、観光地の食中毒等の多発を考慮の上、岩手郡（二戸郡安代町を含む）内、救急災害医療対策要綱を各町村と協議の上制定する要あり、次回までの宿題とするも制定は医師会が音頭をとらざるを得ないと推察し、現在制定に努力中なり。

6) 9月18日長年の懸案でありました定款改正を計画し、下記の順序により着手す。

#### 定款改正までの順序

1. 定款改正委員の委嘱
2. 定款改正委員会を設置し委員長互選
3. 委員会にて草案をまとめる
4. 草案を役員会に図り承認に得る
5. 役員会にて承認を得た案を総会に提案する（昭和58年2月の定期総会）
6. 総会で決議を得る
7. 登記（之は司法代書人か弁護士に依頼する）

先ず全員に対し改正委員の人数及び選出方法に関し下記のアンケート調査を行いたるに次の如き結果を得たり、但し会員中定款の意味を理解せざるもの若干名ありたるは甚だ遺憾なり。

#### 定款改正委員の選出について

1. 委員の数は次の何れがよいか  
良いと思うのを○でかこむ（但し、会長、副会長除く）
 

3人	4人	5人	6人
----	----	----	----
2. 委員の選出について
  - イ) 臨時総会を開いて選挙する
  - ロ) 各支部より何名宛推せんする

ハ 会長の指名とする  
 (以上三案の中、適當と思われるに○を  
 つけること)  
 この用紙をもって報告のこと

## 氏 名

## (イ) 定款改正委員の人数

3人を可とするも	24名
4人 "	5名
5人 "	21名
6人 "	11名

## (ロ) 選出方法

臨時総会を開いて選挙する	1名
各支部より推せんする	18名
会長指名とする	42名

仍而人数3名推せん方法は会長指名  
 とし下記の如く指名す。

- 1 支部 佐藤 郁郎先生
- 2 " 熊谷小次郎 "
- 3 " 宮杜 亨 "

10月26日第1回定款改定委員会を岩手町  
 奈良屋に於て開催し3委員互選の結果、委  
 員長に宮杜亨先生決定す。

引き続き上記委員に執行部より会長、副  
 会長がオブザーバーとして出席し慎重審議  
 をなす。

第1回審議内容を印刷し各委員に配布し  
 更に検討をいただき、12月16日第2回改定  
 委員会を玉山村にて開催凡そ成案を経て  
 現在県医師会を経て県医薬課にて更に検討  
 を依頼中なり。

7) 9月5日医師の為の学校保健を購入参考  
 書として甚だ有益なるにより学校医及び部  
 内(二戸郡安代町を含む)各町養護教諭全  
 員に贈呈す。

8) 10月13日各町村養護教諭に参考文献送付  
 す。

9) 10月14日本年度県民健康講座岩手郡滝沢  
 会場の運営委員を委嘱するため下記に依頼  
 状を発送す。

盛岡保健所総務課長

滝沢村保健課長

滝沢村教育委員会教育次長

尚、医師会側の運営委員は下記の如し

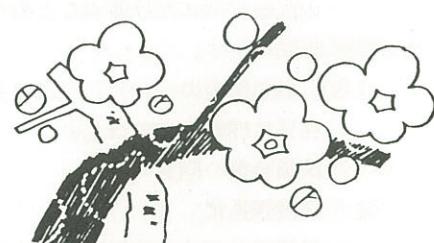
## 下 記

滝沢村 高橋牧之介

零石町 宮杜 亨

玉山村 秋浜 晃

尚、10月13日第1回運営委員会を開催し互  
 選により委員長に高橋牧之介先生を選出す。  
 その後10月19日講師全員の会合を1回、運  
 営委員会を1回開催して、次のとおりカリ  
 キュラムを決定す。



岩手県民健康講座カリキュラム  
(岩手郡滝沢村会場)

主催 岩手県、岩手県医師会  
担当 岩手郡医師会  
場所 滝沢村役場会議室  
日時 昭和58年1月19日～  
2月23日の6日間

	開催年月日	場 所	教 科	時 間	担 当 医 師	所 属
1	58. 1. 19 (水)	滝沢村 役 場	開講式 ①上手に医師にかかるには ②高血圧症	13:00～13:30 13:30～14:30 14:40～15:30	上野 精三 秋浜 晃	盛岡保健所長 挨拶 滝沢村長 岩手郡医師会長 上野医院 (零石) 秋浜医院 (玉山)
2	58. 1. 26 (水)	"	③腰痛について ④肝疾患 ⑤ボケについて	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	柄内 秀彦 角田 則子 岡本 彰	柄内医院 (滝沢) 小岩井診療所 (零石) 玉山岡本病院 (玉山)
3	58. 2. 2 (水)	"	⑥呼吸器疾患・特に気管 支喘息を中心に ⑦虫歯とオヤツ ⑧脳卒中の外科的療法	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	武内 健一 八幡ちか子 根本 忠夫	滝沢中央病院 (滝沢) 八幡歯科医院 (滝沢) 御所診療所 (零石)
4	58. 2. 9 (水)	"	⑨成人病予防について ⑩母子衛生 ⑪胃腸病について	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	千葉奈々子 田村 公一 八角 正司	盛岡保健所 田村医院 (滝沢) 八角医院 (玉山)
5	58. 2. 16 (水)	"	⑫外傷について ⑬小児期におけるウィル ス性疾患 ⑭心臓病について	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	高橋 孝 山田わか子 宮杜 亨	高橋医院 (零石) 山田医院 (滝沢) 御明神診療所 (零石)
6	58. 2. 23 (水)	"	⑮老人の看護 ⑯成人病の予防 閉講式・修了証書授与	13:00～13:50 14:00～14:50 15:00～15:50	工藤 カヨ 高橋牧之介	滝沢中央病院婦長 (滝沢) 高橋医院 (滝沢)

- 10) 10月16日東八幡平病院開設5周年記念医学講演会開催せられ会長出席す。
- 11) 11月29日岩手県予防医学協会に於ける学校検診打合せ会に秋浜理事出席す。
- 12) 11月30日昭和58年1月1日より施行される薬価基準の注文の取り纏めを行う。
- 13) 12月20日盛岡、岩手、紫波三医師会の役員合同会議を盛岡市喜の字にて行う。  
当会より会長、土谷副会長、秋浜、高橋牧

- 両理事及び宮杜県医理事の5名出席す。  
主として2月1日より施行の老人保健法並びに三医師会関連事項に付協議をなす。
- 14) 11月9日都市会長合同並び県医政連執行部会議あり
  - 1) 昭和58年度県民健康講座について
  - 2) 医政連について
- 15) 12月18日昭和58年2月1日より施行せらる、老人保健法に対処するため各役員並び

に役員なき町村の代表医師に対し町村内会員（歯科医を含む、この件岩手郡医師会長と連絡済み）に対し、保健婦を含めて検討会議を開くよう町村と折衝方要望の文書を発送す。

備考——会費の納入について

(イ) A会員には8月24日

(ロ) B会員には11月8日

以上の通り納入方依頼す。

—競技開催にむけ、或いは産業、文化、観光の面でもこの道路の開通の意義は大きいと思われます。また西根町は交通渋滞がやや緩和され、松尾村は、松尾八幡平ICの設置による『新緑と紅葉と冬のスキーの八幡平及び八幡平温泉郷』へのシーズンを通しての観光客誘致への役割は大きいものと思われます。



### 東北自動車道（西根IC～安代ICまで）開通して

#### 鳴 信

東北自動車道の西根町以北の西根IC～安代IC間（32.4km）は、10月19日午後3時より開通し、北へ北へとその道を延長し、首都圏へのつながりもまた近くなろうとしています。

今年は6月23日に暫定開業とはいえ東北新幹線が、盛岡～大宮まで開通し、またまた東北自動車道の開通というイベントがみられ、本県或いは我々近隣町村に住むものにとっても多大の恩恵を得るところとなった。

今回開通した西根～安代間は、最大の難関工事といわれた竜ヶ森トンネルがあり、その長さは約1,922mと長いトンネルもあり、トンネル内災害にもいろいろの工夫が施されているといわれ、またこの東北自動車道最大の475mの高さに位置する見晴らしを誇っている場所でもあり、秋の紅葉のシーズンの開通で、車窓からみる両側の眺望はまた非常に壮観である。またこのトンネル附近の積雪の多量が予想されるところには、吹雪誘導網が設置されており、他では類をみない施設と思われる。

行政区の違いで当岩手郡医師会に所属する安代町（二戸郡）は、昭和63年の国体スキ

#### ★ 編集後記 ★

会長の年頭の御挨拶にもあったように、編集に当って原稿不足に悩む場合が多く、今回は、行事関係の報告事項が多く、珍しくもその逆であった。

そのため、毎号本医報にユーモアと潤いを添え、旧陸軍の様子を教えてくれるので楽しい読み物として各位が期待していた会長寄稿の「鳴呼あの頃」は、折角原稿をいただいたが、次号に掲載せざるを得なくなりましたのでご了承願います。